

2期7年の市政運営の検証から導き出された本市のあるべき構想と当初予算への反映について

沼倉 啓介



かつて今、それらに向き合う姿勢の一端でも示してほしい。

〔質問〕市長は2期目に着任されて早3年目の後半に掛かっている。大震災の発生など、それらの期間における心労は並大抵なものではなかったかとまず持って敬意を申し上げます。

首長として、この2期目の市政の舵取りを通じ、検証をなされていると思うが、本市としての良とするところあるいは、努力を要するところの存在はどのようなものがあるか。ご自分の描く構想のため、それをどのように具現化していくべきと思っておられるのか。新年度当初予算の調理の最終局面に差し掛

〔答弁〕【市長】2期目の後半を迎える現在、それぞれの分野において「共汗・共学・共生」の精神が確実に根づいていると実感をしてい

る。この成果の一つが、第5次総合計画である。本計画は白石の将来像を、「市民が共に支え合いながら生きる力を育み、ふるさと白石に誇りをもてるまちづくり」を進めると定め、市民総参画のまちづくりを推進し、次の世代に誇りを引き継ぐことができる白石の実現を目指すとしている。

平成24年度の予算編成方針では、第5次白石市総合計画で掲げる

90の施策をそれぞれ検証し、市民生活に必須の行政サービスを安定的に供給するとともに、市民ニーズの高い緊急的な課題に取り組むこととしている。

震災についても復興計画を着実に推進するとともに、放射性物質からの市民の不安を解消するため、国が示す除染計画に沿って除染を進めていきたい。

また、公共施設の復旧についても、効率的に工事が行われるよう、監督、指導に努めてまいりたい。

本市の財政状況はますます厳しくなり、より一層の行財政改革に取り組む必要があり、市民の皆様にはこれまで以上にご理解とご協力をいただく必要があると思っ

カメムシ被害の対策について

澁谷 政義



〔質問〕近年、本市において生産されている米に、カメムシの被害が増大している。要因は、生産調整（減反）や生産者の高齢化により耕作放棄による防除の低下及び、消費者の減農薬志向により薬剤使用抑制などが考えられる。

カメムシの被害により検査対象外となった米は、平成22年度産で約29トン、本年23年度産は約70トンである。検査対象外となった米は、高性能色彩選別機を用いて処理した後に再検査を受けて出荷されているが、検査対象になっても等級が2等米、その格付理由は部

分着色など、原因はカメムシである。その米が、平成22年度産で約88トン、本年23年度産は約182トンと、年々被害に増加傾向が見られる。

被害を受けた米は色彩選別機を用いて処理できるが、市内には高性能機械を有する処理施設がなく、生産者は大変不便な思いをしている。白石産米のブランド名を低下させることなく、高品質米を供給するためにも、水稻認定農業者や組合組織等の公共性の高い方々に市が助成し、色彩選別機の設置を促しては

いかがか。本市の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】カメムシの斑点米の対策につ

いては、1点目として、未然に防ぐための防除の事前対策、2点目が、発生した場合の流通上の対策、つまり、事後の対策になる。

行政が行う場合の対策は事前対策であり、調査及び農家が防除に努めるよう啓発活動を行っていくことである。

事後対策は、斑点米を市場に流通させない対策となるため、流通市場を大きく占めているのはJAであり、色彩選別機の設置はJAが講じる対策であると考え

る。来年度は、必要に応じて調査地点を増やし、大発生の際は地域の協議会に農薬の配付等の助成を行うことが最適ではないかと考えている。